

毎日の生活・学習習慣を大切にした小中連携

ねがい

〈目的〉

夢の実現に向けて努力する児童生徒を育てるために、学校の日常生活を通して、社会に通用するマナーと自ら取り組む学習習慣を身に付けさせることが必要であると考えました。

〈内容〉

つながり

● 児童会・生徒会交流会の開催

連携を深めるために、児童・生徒代表17名が集まり、小中連携スクールプログラムによる各校の実践報告と意見交換が行われました。同じ活動でもネーミングや方法に個性や工夫がみられ、他校の実践を参考に、自分たちの取組を見直したいという意見が出されました。



【交流会で発表する代表児童】

【連携1】あいさつ運動、掃除、ボランティア活動の推進

- ① すべての学校で毎朝あいさつ運動が行われています。児童会・生徒会役員を中心に、生活委員や自主参加者が加わったり、学級やチーム単位で全校生が参加したりしています。
- ② 小学校では「黙って清掃」、「ペア学年の清掃」、東中では「掃除名人制度」など、いろいろなシステムや合言葉を考案、全校生が一丸となって環境を整えるとともに、心を磨いています。
- ③ 6年生や生徒会役員がボランティア活動を企画し、全校に参加を呼びかけています。参加者には「ボランティア通帳」発行や「参加カード」配布などを行い、活動の輪を広げています。

【連携2】学習・授業規律の設定

各学校で、始業前準備や姿勢などの学習・授業規律を設定しています。そして各項目の達成度を、児童生徒が自己評価しています。また「互いに伝え合う」ことも大切にしています。小学校では、相手に分かる表現、思いやりのある話し方を話型によって身に付けさせ、中学校では言語交流活動の充実を図っています。授業だけでなく、縦割り活動や集会でも実践しています。

● 小6ステップアップ教室（中学校一日体験）の実施

中学生活に向けての目標を持つために、各小学校の6年生全員が、一日ずつ東中を訪れました。学校説明や施設見学の後、中学内容の授業に参加します。また、掃除体験ではリーダー生徒が手順を教えました。参加後のお礼の手紙には、「小学校でも見習いたい」「中学生になるのが楽しみ」などの感想や入学後の目標が記されていました。



【一日体験で掃除方法を伝授】

〈成果〉

これらの取組によって、互いに刺激を受け、リーダーとなる児童生徒の自覚が高まり、自分たちの手で学校をよくしようという気風が育ちつつあります。

さらにその意識を全体に広げるために、他校のよい所を参考にしながら、活動組織や方法を見直したり、子どもたちの意見を大切にしたり実践したりしようと考えています。

高まり